

北国街道 築百九十三年の
町屋で楽しむ

音と味

第二卷



◆ グランドハープ演奏
丸山京子

心に響き
和の空間に沁み入る
透明な音色

音
を楽しむ
ハープ

茶
を楽しむ

お茶を嗜まれる方には
興味深いお道具を
初めてお茶席を
体験される方には
カルチャーショックを

◆ 席主

江戸千家 小宮山宗輝

味
を楽しむ

創業百有余年の
歴史を持つ
料理のエキスパート
茶席料理を
花見茶箱弁当に凝縮

◆ 香青軒
こうせいけん

令和6年(2024年)

4月21日(日)

◆ 会場 / 小宮山家住宅
上田市常田2-17-11(科野大宮社前)

◆ 開場 / 10時

◆ 開宴 / 10時30分

◆ 終宴 / 12時45分頃

◆ 申込先

TEL 0268-71-7738

Mail : info@091225.jp



3日以内に返信がない場合は
お電話にてお問い合わせください。

● 主催:リモージュコンサート

小宮山家住宅

建てられたのは天保二年、今年(令和六年)築百九十三年を迎えました。現青木村田沢から分家して、科野大宮社の前に住みついたのは、三百年数十年前の元禄年間かと思われます。味噌醤油の醸造で財を成し、江戸後期には所謂、名字帯刀の家になっていましたが、大正時代、保証人になったのが仇になり、醸造蔵から西側の新宅、田畑のほとんどを失い、残った本宅の建物で塩だけを贖っておりました。本宅の建物は表から裏まで抜ける京都で通り庭とよぶ土間、囲炉裏がなく、竈へつついーが炊事暖房の中心になっている、客と家人との玄関がはっきりと区別されている等、京町家の影響を受けていると思われ、当時の京阪との交流をしるばせす。

音を楽しむ

ハーブ 丸山 京子 (まるやまきょうこ)

武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業、東京藝術大学音楽学部別科ハーブ専攻修了。ピアノを夏目芳徳氏、岡崎ゆみ氏、ハーブを篠崎史子氏に師事。これまでにホクト文化ホール主催「長野県ゆかりの音楽家シリーズ Vol.12」松本文化会館主催「まつぶんクリスマスフェスティバル」など多数出演。現在は主に長野県内にてオーケストラ、吹奏楽の賛助出演、合唱の伴奏、室内楽、ソロなど多岐にわたる演奏活動を行うほか、後進の指導にもあたっている。また、長野市、松本市では12弦や34弦といった小型のハーブの普及にも努めている。長野県にゆかりのあるプロの演奏家団体ensemble NOVA団員、佐久演奏家協会メンバー。長野市出身・在住。

茶を楽しむ

小宮山宗輝 (こみやまそうき)

茶名/小宮山宗輝・本名/益子輝之(ますこてるゆき)昭和16年(1941年)東京生まれ。父が出征したため1歳で母の郷里上田に移住し育つ。昭和34年国学院大学文学部入学、落語研究会で活躍。昭和38年大学卒業後上田市に戻り、上田市役所商工観光課に勤務、以来20年観光を担当。その間、市民まつり「上田わっしょい」の企画、「信州の鎌倉」宣伝等に参画。変わった市職員として「11PM」「小川宏ショー」等に出演。昭和39年市役所川柳会入会、金子呑風・山崎鮮紅両先生に指導を受ける。昭和40年上田真田歌舞伎研究会加入。市川鏡十郎師の指導のもとに、八重垣炬・時姫・玉手御前・大藏脚等を務める。坂東流の坂東三之浜師に入門、名取名は坂東三之藤。昭和40年NHKの番組の撮影で市内を訪れた作家・池波正太郎と出会い親交を深める。益子の郷土史の話がその後の池波の作品にいかされたことはいうまでもない。実は益子の正体は、地球人のレベルを上げるため、地球にやってきた宇宙人であると噂されている、そして小宮山家住宅の主人でもある。

味を楽しむ

香青軒 (こうせいけん)

上田の繁華街・袋町にて、今年105年目を迎えている料理店。創業当時(大正8年)是和風洋食が全国に広まり、その料理をお客様へと創業。以後、養蚕業にて栄えていた上田で、需要があるとして料亭となり、和・会席料理を提供する。当時御地に芸者衆も180名近くおり、上田がもつとも潤っていた時代とか。以降時代を見据えた料理・形態(上田で初めてのフランス料理・テーブルマナー指導・喫茶店・ダンスホール・真のバイキング・結婚式場等)を提供し続け今日に至っている。殊に、40年程前より茶室を設け、茶懐石料理を取り入れ県内外のお客様にお越し頂いているそう。また、料理提供とともに、和の室礼・年中行事・通過儀礼等を大切にしたいとして、時折その話し・説明をも聞けるのが楽しいお店。